

—わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い—
ミュージアム都留からのお知らせ

●展示資料紹介

○耳飾りをつけた土偶(山梨県指定文化財)

この土偶は、市内小形山の中谷遺跡から出土したもので、縄文時代晩期(紀元前1000年～前300年)のものと考えられます。両耳に円盤状の耳飾りを付けた姿を表しており、当時の習俗を知るための資料として、全国的にも貴重なものとされています。



耳飾りをつけた土偶

●次回企画展予定

収蔵資料展『花鳥画展』(仮) 3月24日(土)より

ミュージアム都留の収蔵品より、^{よねやまぼくあん}米山朴庵、^{ふじいかきょう}藤井霞郷、^{たなからんこく}田中蘭谷などの郷土の画家たちが描いた花鳥画を中心に展示します。

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、
第3火曜日、祝日の翌日

観覧料 入館料 一般 300円(210円)
高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)

※()内は20名以上の団体料金

※チケットは増田誠美術館と共通券となっています。

問合先 ミュージアム都留 ☎(45)8008



米山朴庵
いしんはつこう
「威震八荒図」



田中蘭谷「牡丹図」

勝山城のなぞに迫る！

1月7日からNHK大河ドラマ「風林火山」が始まりました。

このドラマでは、当時の郡内領主であった小山田信有が登場します。この小山田氏は現在の都留市金井に館を構えていたと伝えられていて、地元にはデイ堀、的場といった館に関するような呼び名が残されています。

しかし、具体的に金井のどこに所在していたのかは明らかになっておらず、過去の調査でも明らかな場所は分かっていません。勝山城跡学術調査会では、この小山田氏館跡(中津森館跡)も調査の範囲に含め調査を進めています。昨年は土器などの表面採集や発掘調査を行った結果、中世の時代の遺物が多く確認され、この金井の地に小山田氏の館があった可能性は高いと考えられます。

さて、勝山城跡の調査ですが、昨年11月21日から12月8日の間、3カ所で発掘調査を行いました。そのうち1カ所は石が草に覆われている箇所清掃発掘を行いました。その結果、石垣と思わしきものが確認されました。発掘検討会での検討の結果、ただ単に土留めの役を果たしていたのではなく、何らかの施設に伴う石垣である可能性が考えられるという意見が出されました。今後は重点的にこの箇所を調査するとともに、新たな試掘箇所を検討していきたいと思えます。

また、学術調査委員の調査によって新たな勝山城の絵図が発見されました。まだまだ未知の絵図は存在している可能性がありますので、心当たりがある方はミュージアム都留へご一報ください。

増田誠美術館

増田画伯が描く万葉の歌人達
「歌人賛歌」

会期 3月4日(日)まで
開館時間 午前9時～午後4時30分
会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)
休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日

墨彩画15点を初公開！

今回の展示会では、柿本人麻呂や山辺赤人、小野小町、紫式部といった百人一首を代表する歌人だけではなく、墨彩画で描いた「七福神」「八朔祭」「風林火山」の掛け軸なども展示しています。どの作品も画伯らしさがあふれ、油彩画とは違った新鮮味があります。墨彩画というと、画伯のイメージからは想像が難しいと思われそうですが、画伯は「墨には色がある」と語っておられました。そして、墨彩画を書き続けることを「道草の味」という作品の中で次のように語っています。「六十路過ぎ 墨への道の遙かなる」



「道草」という表現がいかに画伯らしく、ユーモラスがあふれています。

また、今回展示した作品の中には「増田誠の自分史―前半生落書帳」があります。画伯誕生から渡仏までの様子が全長10mに及び絵と文章でつづられています。増田画伯の生きた時代とともに画伯の半生がひしひしと伝わってくる大作です。

墨彩画の世界とともに画伯の知られざる一面に接して頂けたらと思います。